

一心に念じる

一心とはどういうことでしょうか。それは、心を一点に集中することです。例えば、油をいっぱい注いだ皿を掌に載せて、この油を一滴もこぼさずに階段を登って祭壇に献じることができれば、自分の死刑が恩赦されるとなれば、本気も本気、心を一つにして、一步一步、この上もなく慎重に足を運ぶはずで、これが一心に念じるということです。

念じるという行為は自分自身のことです。うわのそらでは油をこぼしてしまいます。「念」という漢字は、「今」と「心」の合成文字です。つまり、観音さまを拝んでいる今の心が、観音さまでいっぱいになっている心境が「念じる」ということです。

一心とは仏教用語です。雑念を起さず、ひたすら対象に心を集中して思念を乱さない状態です。「一心不乱」「一心正念」「一心法界」という仏教用語があります。一心が全世界であり、一心が大宇宙であり、一心が仏であり、一心が神であると、あらゆる宗教が一心に祈ることを説いています。つまり、一心に観音さまを祈るということは、全身全霊が観音さまで一杯になっているということです。

一心同体とは、私が観音さまの懐に飛びこみ、観音さまが私を包んでくださるということです。自と他が溶け合っている状態を一心といい、一如といい、ヨーガといいます。祈りは自分自身のことです。観音さまの名前を聞いたり、唱えたり、あるいはお姿を拝見したり、または心に思い浮かべたりして、常に観音さまを忘れないようにすることです。

詩人の坂村真民さんは、「祈りに馴れたらもうおしまい。祈りはいつも初々しくあれ」と詠っています。この詩は強烈に私の心に響いてきます。読経に馴れてきますと、ほかごとを考えながら、うわのそらでお経を読むことがあるからです。祈りのプロになればなるほど、馴れてしまうことには厳重に注意したいものです。この詩は心のゆるみを警告してくれます。

観音経には、「心に観世音菩薩を念ずれば、すべての苦悩が消滅される」と、まことに力強く保証されています。一心とは、無欲に徹することです。無欲であればこそ、喜怒哀楽のあらゆるものごとをすなおに受け入れることができます。一心とは、静かに澄んだ水が、景色をそのまま映すような状態でもあります。